

輝く功績

第70回岐阜新聞大賞受賞者

⑥

製造、流通、販売まで一貫して手掛ける製造小売業のビジネスモデルをいち早く構築し、ドミナント（地域集中出店）戦略による店舗拡大で、バロー社長就任から25年で営業収益を約10倍に伸ばした。2018年には地方のスーパ

ー2社と新日本スーパーマーケット同盟を立ち上げ、流通業界でも存在感を放つ。「地元で賞をもらい、地元から支持されることは一番ありがたい」と喜ぶ。

制御機器メーカーに6年勤めた後、小売業の世界に飛び込んだ。当時のスーパーは、問屋を通じて商品を仕入れる業態だった。「問屋にあるものしか売り場に並べられない」。メーカーから商品を直

接仕入れるため、早くから流通拠点の必要性を見抜き、物流センター建設に向けて奔走した。

だが当時は建設の理解が得られず、周囲は反対の声ばかり。自らの力で資金集めを余儀なくされた。思い付いたのが、取引先から保証金名目で資金を集める手法だった。「ア

パートの敷金と同じように、5年間は取引を継続するので保証金を出してほしいと取引先を回った」。取引先の協力を得て、念願の物流センター開設にこぎつけた。

店舗は特定地域に集中的に出店し、規模を拡大。商品力を磨いて消費者の心をつかみ、中部地方を代表するスーパーの地位を築いた。ドラッ

流通網築き店舗を拡大

グストアなども展開し、グループ全体の店舗数は1159店（2019年12月末時点）に上る。

企業規模が拡大しても、地元食文化に対する思い入れは強い。スーパーの店舗で地域の食材を積極的に扱い、地

域の食文化を守ること貢献する。「朴葉すしや五平餅といった地域の良いものがなくなるのはもったいない。もう一度、岐阜の食文化を掘り起こす」と意欲を燃やす。

多治見商工会議所会頭を務めるのは、東美濃をキーワードに周

辺の商工会議所と広域連携を進める。県ラグビーフットボール協会長として、スポーツ振興にも取り組む。「中津川市に建設されるリニア中央新幹線の岐阜県駅の近くにラグビーの聖地となるスタジアムを造りたい」と夢を描く。

バローホールディングス
代表取締役会長兼社長

田代 正美氏

産業部門



「もう一度、岐阜の食文化を掘り起こしたい」と語る田代正美会長兼社長
〓多治見市大針町、バローホールディングス本部

【たしろ・まさみ】1947年生まれ。神奈川県出身。早稲田大法学部卒。制御機器メーカーを経て、77年にバローに入社。常務、専務を歴任し、94年に創業者で義父の伊藤喜美氏から社長を継承した。持ち株会社への移行に伴い、2015年からバローホールディングス会長兼社長。可児市桜ヶ丘在住。72歳。